

令和7年2月記者発表

質疑応答の概要

①市道穀田三ノ関線 開通式の開催

Q.

開通式で行う走り初めとはどういったものですか。また、道路の開通が富谷小・中学校の児童生徒の安全安心な通学に寄与するとのことですが、現在の状態ではどのように危険なのでしょうか。

A.市長

走り初めにつきましては、セレモニー終了後、大和警察署のパトカーに先導していただき、次に市長車、次に式典出席者の車両の順に繋がって起点から終点にかけて走行します。その後、12時30分より一般の通行を開始する予定です。なお、通学路につきましては、市役所から富谷小学校に抜ける道幅や、市役所前からしんまち公園の交差点にかけての道幅が大変狭いので、道路を開通することで富谷小・中学生の安全確保につながることを期待されます。

③令和6年度小さな親切運動「福祉の心」贈呈式の開催

Q.

市民総参加による空き缶回収を行うとのことですが、何か決められた日に、どのくらいの頻度で行うのですか。さらに、社会福祉協議会への寄贈品はどういったもので、金額ではいくらですか。また、寄贈品は社会福祉協議会の会長に渡されると思うのですが、会長の名前を教えてください。

A.生涯学習課長

空き缶回収は基本的に月に1回小学校と中学校で行っていますが、市民総参加というのは、春と秋のクリーン作戦時にも空き缶回収を行っているのです。寄贈品につきましては、今回は社会福祉協議会の希望もありまして、44mmの缶バッチを作る機械を贈呈する予定です。金額は5万円程度のものです。寄贈品は市長から社会福祉協議会の会長に贈呈しますが、会長のお名前は草野昭徳（くさのあきのり）さんです。

④とみやランニングクリニックの開催

Q.

講師である渡邊さんは先日学校にもいらして講演会を開いていたと思うのですが、株式会社RUNDYや渡邊さんとの繋がりに至った背景などはあるのでしょうか。

A.生涯学習課長

はじめに渡邊さんから本市の生涯学習課に問い合わせがありまして、各小中学校で講演等を行いたいとお話がありました。そちらを受け、先日東向陽台中学校で講演会を開催したところです。さらに、渡邊さんは青山学院大学のOBということで今回ランニングク

リニックを開催する運びとなりました。

○その他、案件以外の質問

Q.

議会も始まりロープウェイの構想について調査費用も計上され、新年度から調査が始まるとのことで、仙台市長はロープウェイについて懸念を示されているようですが、現段階で市長として事業を実施する上で難しいと考えているところや懸念点があれば教えてください。

A.市長

これまで本市では、地下鉄やBRTの導入調査を行ってまいりました。しかし、どちらもかなりの整備費や整備期間がかかるという大きな課題があり、新たな公共交通システムとして第3の候補ということで都市型自走式ロープウェイを富谷市地域公共交通活性化協議会で提案させていただいたところでございます。そして、今回正式に令和7年度予算に調査費用を計上し、ロープウェイの導入は可能なのか、可能であればどのルートを通していく必要があるのかなどの導入可能性について、この1年を通して調査を進めていくという形でございます。仙台市には、これまでも地下鉄の延伸やBRTについて都度報告させていただいておりましたが、今回も改めて導入可能かを含めてこれから調査をする経緯を説明させていただきました。今後につきましては、令和7年度当初予算の可決を受け、Zip Infrastructure株式会社と契約を結んで調査委託を行い、まずはこの調査結果を踏まえ仙台市にご報告させていただきたいと思っております。課題については、これから調査する上でたくさん出てくると思いますが、調査を踏まえ、その都度必要な対応をしていくべきだと考えております。

Q.

ロープウェイに関しまして、「相当ハードルが高い」という郡市長の発言は調査段階である現時点としては非常に厳しい発言だと感じたのですが、市長はどのように受け止めましたか。

A.市長

郡市長におかれましては、今回突然都市型ロープウェイの導入というものが話題に上がり、ロープウェイがどういったものであるのかということを含め、必要な情報が伝達されていなかったところでの発言だったと考えております。私から郡市長には、令和7年度に導入可能かを含めて調査し、その結果を踏まえ報告させていただきたいとお伝えしています。

Q.

仙台市とはロープウェイを泉中央駅まで通す場合に協力関係を築いていかなければならないと思いますが、現時点での仙台市の受け止めに対して、どのように理解を求め、克服していくお考えでしょうか。

A.市長

どんなに素晴らしい調査結果が出たとしても、最終的には仙台市のご理解をいただければこの事業を進めることができないので、そこは一番大きな壁だと考えております。しかし、あくまで導入が可能なのか、可能であればどのルートを通していく必要があるのかとい

うことが今回の調査において分かってくるので、その結果を踏まえて改めてご相談させていただきたいと思っております。

Q.

仙台医療圏の病院問題に関しまして、村井知事は来年度以降も東北労災病院に関しては変わらず富谷市への移転を目指していくということでしたが、県や東北労災病院からなにかお話はあったのでしょうか。また市長の先行きに対する思いをお聞かせください。

A.市長

4病院再編につきまして、当初は仙台赤十字病院と県立がんセンターが名取市へ、東北労災病院と県立精神医療センターを合築して富谷市へという方針が示されておりました。しかし先日、県立精神医療センターは名取市での建て替えに決まりました。県民の方々や審議会などの様々な意見を考慮した結果であると思っておりますので、その結果については尊重したいと考えております。本市が、今回の4病院再編の話が上がった際に真っ先に手を挙げさせていただいたのは、この地域には救急病院や災害拠点病院がなく、他の地域に比べ搬送時間が多くかかってしまうという課題があり、救急・急性期を担う病院を本市へ誘致することで多くの命を救い、市民の安全安心を守りたいという強い思いがあるからです。東北労災病院の件につきましては、本来であれば令和6年度中の協議ということでしたが、様々な課題があるということで今年度中に結論を出すことは難しいということになり、令和7年度への持ち越しが伝えられたところでございます。私としては富谷市に移転してほしいという思いに変わりはなく、土地も用意しているので、これからも変わらずただ待ち続けるという状況です。

Q.

協議を来年度に持ち越すことについて、今のところ県や東北労災病院から直接お話をいただいているわけではないのでしょうか。

A.市長

細かい情報提供をいただいているわけではないのですが、今年度中の協議は難しいので、令和7年度に持ち越すことになるというご連絡はいただいております。

Q.

病院移転のプロセスについて、スピード感を求めるのか、それともしっかり県民の理解を受けたうえで進めていきたいのか、市長の要望がもしあれば聞かせてください。

A.市長

なるべく早く正式な決定をいただきたいという思いはもちろんありますが、そちらに関しましては実際に移転を検討している労働者健康安全機構の判断が一番大切なので、本市としてはただ期待をして待つだけだと考えております。